

平成 26 年度海外短期研修報告書

カナダ春期英語研修（平成 27 年 3 月 2 日～3 月 27 日）

都市教養学部経営学系 1 年 小林 蓮

私のカナダ春期英語研修体験を報告します。この体験は私にとって初めての海外であり、初めての留学になりました。皆さんに有益となるようなカナダ留学の紹介ができれば光栄です。

トロントはアメリカに近く、冬は厳しいものの、観光地も多くまた交通機関も発達しているので非常に住みやすい町です。私たちは 3 月の比較的寒い時期に行ったので氷点下 10 度から 20 度の世界は当たり前で、体調管理に気をつけねばなりません。大学はとても広く、構内には理髪店やクリニック、バスターミナルなどがあり、まるでひとつの町のようにでした。しかし、私たちはストライキのためほとんどの場合大学の中からバスに乗ることができず、構外のバス停まで歩かねばならず、苦労した一面もありました。

次にヨーク大学での授業や大学の生活を紹介したいと思います。ヨーク大学の YUELI (York University English Language Institute) は 7 つのクラスに分けられます。2 日目にプレースメントテストを受けてその結果に応じて自分の英語力にあったクラスが選択されます、と言いたいところですが私の場合はそうではありませんでした。

プレースメントテストはライティング、グラマー、リスニングと、TOEIC に近い感じのテストでした。私はそのテストの結果がたまたま良く、7 つあるうちの 4 番目のクラスに入ることができました。午前に授業があるクラスだったのでクラスが発表された時は午後ダウンタウンに出かけたり、遊ぶことができると期待を膨らませながら友達とはしゃいでいました。LEVEL4 クラスは大学の授業を聴講することができる力を養うためのクラスで、大学の授業に実際に参加することができます。ですから、英語圏の大学に長期留学を考えている人は授業に出席することをお勧めします。しかしこのクラスは日本でしか英語を勉強したことがなかった私にとって甘くはありませんでした。授業内容は与えられた課題に沿って 5 分間のプレゼンテーションをおこなったり、300~500 語程度のエッセイを書いたりします。授業初日のクラスでは、先生の英語は全く聞き取れず、自己紹介の時にクラスメイトが自分の 2 倍の時間ほど話しているのを目の当たりにして驚き、焦りを感じました。また、休み時間にクラスメイトと話しても日本語しか頭に浮かばず、なかなか自分の思っていることや言いたいことが伝わらず悔しい思いをたくさんしました。しかし、クラスメイトの多くは半年も前からカナダに来てたくさん間違え、努力してクラスのレベルを上げてきた人たちなので、授業で間違えることがあったり、文法にそってしっかり話すことができなくてもそれを受け入れ、「初めて外国に来たのによくこんなに話すことができるね」と励ましてくれました。私は彼らの、できないことは恥ずかしいことではないと思っている点に一番救われました。

午前の授業では授業内容や先生の言っていることを理解するのに必死で、午後はクラスのレベルに追いつくために予習復習をしたり、課題を仕上げるので精いっぱい毎日を過ごしていました。3 週目の半ば、私はハードな日程に体がついていけず 39 度くらいの熱を出し授業を休んでしまいました。海外で体調を崩すのは本当に大変なことです。病院もどこに行っても良いかわからないし、英語で自分の症状を事細かに伝えられないといけません。しかし、大学のプログラムで一緒に行った先輩や同級生たちが食べ物や飲み物を買ってきてくれたり、国際課の方や保険会社の方が電話をかけてくださり、近くの日本語が通じるクリニックや、何をしたらよいかを伝えてくださいました。また、ヨーク大学の寮のスタッフの方も心配して部屋にかけつけて来てくれました。話し合った結果、日本から持参した薬を服用してしばらく様子を見ることに決めましたが、体調は 3 日ほどで回復し、その次の週からは無事に授業に出席することができました。この経験を通して私たちの留学は様々な方の支援の上に成り立っているものだと痛感しました。初めて海外に行く人にとってはこのような国際課の皆さんのサポートは、非常に心強いものであると思います。

休日のアクティビティはトロントの観光名所に行きます。トロントの中心にありオンタリオ湖を一望することができる CN タワー、世界有数の観光名所として名高いナイアガラの滝などに行くので、日本では味わうことができない雰囲気や壮大な景色を味わうことができます。語学の勉強だけでなく、アクティビティを通して様々な体験ができるのも短期語学研修の魅力の一つです。



カナダでの経験は即効性があるというよりは今後の人生や大学生活に活かすことができるようなものです。正直に言うと1か月で英語を流暢に喋ることができるようにはなりません。しかし、1か月間絶えず英語に触れていることにより語彙も相当増えるし、なにより英語を話すことへの勇気を得られます。また、英語を話すのが楽しくなり、日本に帰ってきた今では英語を話す機会が少なくなり物足りないと感じることもあります。海外における英語を話すことの必要性、英語が話せることの優位さ、海外に留学に来ている人たちの学業に対しての意欲を感じることで日本に帰ってきてからの授業に対する意識も高まり、休日も英語の勉強をするようになりました。海外に対しての不安が少なくなったことも大きなメリットだと感じています。

日々のクラスや寮の生活でたくさんの人と交流し、友達を作ることができました。クラスメイトなどの現地の学生と facebook や instagram のアカウントを交換して今でも連絡を取り合っています。特に寮の部屋が近くだった中国の人と仲良くなり、夏休みにその友達の家に行く計画も立てたりしています。また、外国に友達がいると日本や世界を両面から見たり知ったりすることができます。例えば、カナダに行く前に、中国では反日デモが起きていることを報道していたので、私は中国の人は日本に対して良い印象を持っていないのではないかと考えていました。しかし実際に交流すると、中国の人は偏見など持たずに気さくに話しかけてくれたり優しく接してくれて、私の中国に対する印象は変わりました。また、初めて会った時に自分が日本人であることを相手に伝え、現地の生徒は必ずと言っていいほど日本のアニメや漫画の話になりワンピースや NARUTO の話をして盛り上がります。そういったところからも日本の文化が世界に浸透していることを感じました。

カナダの短期海外語学研修は将来的に長期の留学の計画を立てている人のみならず、せっかくの春休みに海外のレベルの高い大学に行って英語を学びたい人にとっても最適なものだと思います。

最後に国際課をはじめとするこの留学をサポートしてくださった皆様、ありがとうございました。

